

# 横浜国立大学大学院 工学研究院の 2009年度の活動を ふりかえって

工学研究院長 石原 修



横浜国立大学は2004年4月に国立大学法人となり、2009年度の終了の時点(2010年3月)で6年間の第一期中期目標期間が終了しました。工学研究院では教育研究活動、業務運営面等での取り組みについて、自己点検・評価による実績報告書を作成し、全学の法人評価専門委員会でもとめて国立大学法人評価委員会に提出しました。その評価結果は3月末に公表され、全体評価として以下のような評価を受けました。

『横浜国立大学は、文化と社会と産業を支える実学的な学術分野を中心に構成されており、「実践性」、「先進性」、「開放性」及び「国際性」を大学の精神とし、実践的学術の拠点となることを大学の目標として掲げている。この目標を実現するために「大学憲章」を定め、学長のリーダーシップの下、大学運営を推進している。中期目標期間の業務実績の状況は、「財務内容の改善に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が非常に優れているほか、それ以外の項目(教育に関する目標、研究に関する目標、業務運営の改善及び効率化に関する目標、自己点検・評価及び情報提供に関する目標、施設設備の整備・活用、安全管理等業務運営に関する重要目標)で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。』

評価の中で、工学研究院関連でとくに認められたものを抜き出してみると、①教育では：学生による授業評価等を考慮したベストティーチャー賞の制度化、全学による学生顕彰制度の改善、数多くの利用スペースの設置による学生の自主的な勉学の場の提供、大学院生の国際会議出席への支援等の取組、②研究では：若手研究者が研究に専念できる環境の整備、学内公募によるベンチャービジネスの萌芽となる独創的研究テーマへの開発支援等の取組みです。また、③社会連携・国際交流等について

は、数多くの学術交流協定の締結、多くの外国人研究者の客員教員としての受入れ、国際交流の全学横断的な支援体制の確立、多くの途上国援助への参画等の取組、④業務運営では、社会的ニーズや学術の動向等を踏まえ、既存のセンター等の見直しを含めた教育研究組織等の整備について検討する体制が整っていること、⑤財務内容については、財務分析を教育経費の充実や経費の削減に結びつけていること、間接経費配分の適正化、複数の企業等との包括的連携協定の締結、科学研究費補助金の申請状況等に応じて措置する経費の新設等外部資金の獲得に積極的に取り組んでおり、科学研究費補助金、共同研究、受託研究、寄附金の獲得額が着実に増加してきている、などが挙げられています。

また、特色ある点としては、①質の高い高度専門職業人を養成する体制を実現するために、工学府における実務家養成のためのパイタイプ・エンジニアリング・ディグリー（PED）プログラムの設置、②グローバルCOEプログラム等質の高いプログラムを通して、国際的研究拠点を構築し、また国際学術誌への多くの論文を発表したことは、国内外の学術機関・学協会から多くの賞を受ける等外部からの高い評価につながったこと、などが注目されています。

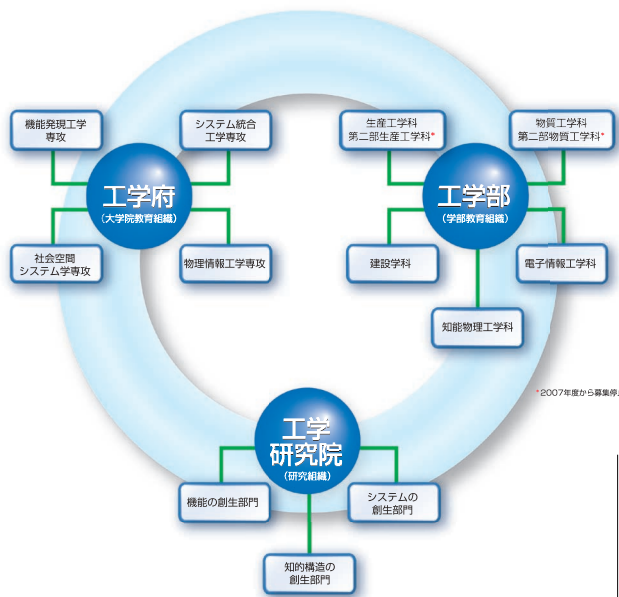
1920年横浜高等工業学校設立から、90年。部局化して9年、法人化して6年、第一期中期目標期間の最後の年の我々の活動は上記の評価にも表れていますが、この年報『ハイライト』で横浜国立大学大学院工学研究院の活動をご覧ください。我々はこうした活動をさらに発展させて、第二期中期目標期間に入ろうとしています。

## 工学研究院／工学府／工学部

### 研究と教育の組織について

本学工学部の教育研究組織を母体とする工学研究院は、2001年に研究分野ごとに教員が配置される研究組織である大学院工学研究院と、大学院教育組織である工学府となりました。それにより横浜国立大学工学部は、学部教育組織である工学部とともに、研究院・学府・学部の三者からなる組織へと改組されました。社会のニーズに合わせて、研究・教育の組織をより柔軟に変えていくことを目指したものです。

大学院学生は大学院工学府に所属します。教員は既存の学問分野の枠組みにとらわれずに研究活動に邁進し、学生は教員組織の枠組みにとらわれない最適の教育プログラムを享受できる、これが横浜国立大学大学院工学研究院の特徴です。このような理想のもと、すぐれた研究者・技術者を育てるには、学部教育の充実が不可欠であり、学部教育には工学研究院と環境情報研究院等の教員が連携してあたり、質の高い教育プロ



ラムを提供します。こうした考えに立って工学研究院が運営されています。工学研究院は82名の教授、58名の准教授、16名の講師・助教を含む208名の教員（数字は2009年10月の時点）からなり、工学府博士課程は前期（修士約830名）、後期（博士約170名）を含む約1000名の大学院生からなっています。工学部では256名の教員が約3100名の学生の教育を行っています。